

地域連携推進会議 12/6(金) みらい 10:30～

- 1、開催のあいさつ・趣旨説明
- 2、出席者自己紹介
- 3、グループホームの紹介
- 4、事前訪問のご意見・ご感想
- 5、今後の地域連携推進会議について
- 6、閉会

1、開会のあいさつ

当法人の運営にご理解いただきましたありがとうございます。

当法人は、他法人やヘルパーを利用する。1人1人の利用さんの生活をオーダーメイドで作っていくことを行なってきた。風通しの多いことをおこなってきた。

しかしながら、やっているつもりではあるが、普段の中で見落としていることもありますので、地域連携推進会議は、今年度は努力義務、来年度から義務化されるため、色んなご意見、ご質問、利用されている方へのサービスをより良いものになりたいと考えています。

会議の趣旨

今回の会議を機に改めて、利用者と地域の関係に作り、サービスの透明性、利用者の権利擁護、情報共有と意見交換に加えて、入居されている方に会って、どんな人が住んでいるか、働いている職員に働きぶりをどんなものか、障害の有無に関わらず、生活をしていただきたいと思っていますので、地域との連携を持ち続けていただけると幸いです。

2、参加者構成の紹介

利用者1名。利用者家族1名。地域関係者、福祉に知見のある者1名。市町村担当者2名。
グループホーム管理者、職員5名

3、グループホームの紹介

昴のGHは全部で9箇所ある

2つに分けて地域連携推進会議を開催して行きます

今回は東松山にある4つのグループホームの紹介です。

ピアハイム

建物自体は歴史の感じるグループホームになっている、2階に2名1階には支援が必要な利用者がいます。日中はグループホームで過ごしている人はいない。

ピアハイムに住んでいる利用者さんが、展示会で自分の絵の前で撮っている写真です。

描いた作品はグッズになっていることもある

スカイハイ

ピアハイムの近くにあるグループホーム定員5名 男性4名女性1名

1人暮らしを考えて開設したグループホームです。普通のアパートタイプ

4つあるうちの3部屋を借りて、一般の人も入居している。

みらい

東日本大震災の年に開設している

医療的ケアが必要な方が住んでいる。ケアの量が多いため、事業所を超えた連携をしていて、成り立っている。

ソキウス

定員は6名で全員男性、日中にみなさん同じところに通っていて、日頃はヘルパーの利用もあり、地域の活動としては、自治会でゴミ拾いも参加している

ここはグループホームで水害のハザードに入っている、市野川が心配なので気にしている。

4. 事前にご訪問していただいた、グループホーム見学のご意見

ピアハイム(地域関係者、福祉に知見のある人)

20年ぶりくらいに訪問しましたが、事前に資料にある見学の視点をいただいたので、その部分の確認をした。

平成4年から建っていると思われないくらい綺麗に使われていた。入居者は綺麗な状態で過ごされているようでした

職員もご飯作りの様子を見ることや、1日の流れを確認しました。問題ない。利用者にも様子伺いました

質問:離れたあるところ、〇〇さんの様子がわからず、GHなのかそうなのか、答えられなかった。

回答:基本的には場所を貸しているのみ。場所を貸すにしても、洗濯機を貸しているためタイミングは、融通しないといけないこともあるため、入居者と調整が必要なこともある。

質問:(離れたところにある家の利用者)GH よりかは家なのか？

回答:1人暮らしである。重度包括で入っている。エリアのヘルパーステーションも入っている。

質問:(離れたところにある家の利用者)ピアの世話人がご飯を作っているのか？

回答:食費は別途もらっている。GH で作った物を分けてもらっている。その分、食数は追加して作っている。

スカイハイ(利用者家族)

こちらもみていた子どもたちは100介助しないとイケないが、

その人は都内まで仕事に行ってきた。洗濯物などは自身でやっていた。広いわけではないが、整っていた。

仕事は楽しい、自転車で通っていた。去年はディズニーランドは友達と行っていた。ご飯の片付けの手伝いもしていた。暗かったけど外に洗濯ものが干してあって、利用者のこだわりがあって、職員からは取り込めない。肉体的な支援ではなく、精神的なサポートが大変なんだろうなと尊重している。封筒1つ開けるのも利用者を確認しながら行うこと。精神的な面や個性を大事にされているように思える。

みらいは賑やかであるが、ゆったり静かで動いているグループホームをみたので、よかったです。

みらい

訪問していただいて、1番多い瞬間はGHの職員とヘルパーと訪問看護や訪問薬剤がくることがあり、そのごちゃごちゃする時はみらいっぽい。日常は賑やかに行われている。

ソキウス(市町村担当者)

(開催されたみらいと)同じフローリングで綺麗な作りで、真ん中に共有スペースがあって、周りに居室があって、自分の家より綺麗と感じた。

(利用者への質問で)ここでの生活はどうか？と聞くと、「楽しいです」の回答をもらった。トイレ2か所、お風呂も清潔で素晴らしいイメージを思った。

質問:ソキウスはハザードにのっているところなので、想定や訓練を行なっているのか？

回答:市の方から消防の避難訓練とは別に避難誘導・訓練をしている。9月の土曜日にみんなに、ここから逃げますと。避難場所を2箇所準備していて、今回は通所している松の実へ避難訓練をした。生活のこだわりが強い利用者が多いため、やる前はパニックになるのでは

ないか、と想定していた。松の実が高台にあり、普段慣れているから想定しているよりもスムーズではあった。特性上、その時の概ね発令状態をみて避難を判断する。

グループホームに全員乗れる車両がないため、松の実に車両を取り行って避難まで30分程度かかる。BCPも災害時の計画を立てて、見直しも行なっている。グループホームを継続するために実際に使えるか、毎年確認している。災害のパターンと感染のパターンと準備をしている。ソキウスはそこに水害のパターンを準備している。

5. 今後の地域連携推進会議について

(地域関係者、福祉に知見のある人)

参加しているのはグループホーム連絡会議の代表として参加しているので、見学もしながら、来年度義務化される中で、簡素化や効率化できると良いなと思っている。

グループホーム連絡会として音頭をとって何かしたい。

自治会の中で密にやりとりをしている。所属しているグループホームは地域の中で受け入れてくれている。自治会に入っていないグループホームも連絡会にあるので、特に災害時に助けもらえるためにも、どんどん地域に参加して行ってほしい。

(市町村担当者)

地域の人に関わり方について難しさを感じている。

実際のところを見てもらって、どんな人がいて、受け入れられい人もいると思うので、地域の人を巻き込みながら、地域の人に理解してもらおうか、難しいときこそ知ってもらったほうがいい。1法人1グループホームのような場合は負担になると思うので、まとめてできるといいなと思った。

(市町村担当者)

今回行政職員として、グループホームの実態を実際に入った、これまでは利用者や職員に話を聞く機会はなかった。その上で意味のあることであった。来年度以降は市内45、46とある中で、同じ法人内でみるのはよいが、法人1つ2つの運営しているところは、効率的にできそう。

地域連携推進会議のあり方は行政としても検討して行きたい

(利用者)

いろんな利用者さんもこの会議に参加できて、色々な意見をもらえると良いと思う

(利用者家族)

普通の方々にわかっていただけることがあると良いな。と思う

健常の子どもがいて、見学等どうぞと言われても、積極的には参加はしないと思うため、自然な形で参加できたらいいなと思っている

(主催グループホームより)

福祉関係者はヘルパーで入ることあるが、他のグループホームに自治会関係や家族が行くことがなかったため、よい機会になった。

今後、義務化される中で形骸化しないと良いなと考えている。

ときがわのホームの中で近所の人をお呼びして、交流もしたが、随時開催も難しいため、会議を自治会等とのハブとして活かしながら、目的を達成できると良いと思っている。

裏手に隣接する地域の人で、1年くらい経った時に訪問あって、大根たくさん持ってきてくれて、出入りしているからみなさんでどうぞと持ってきてもらえることがあった。回覧板を持って行ったときに関わりもあった。自治会長さんが見学に来てくれたこともよかった。

6, 閉会